

法人（事業所）理念	障がい児が、日常生活における基本動作を習得し、及び集団生活に適応することができるよう、当該障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切且つ効果的な指導及び支援を行う。					
支援方針	<p>1. 本人支援 子どもたちの全人格的な発達促進を目的とした随意運動プログラムを基本として支援を実践する。随意運動プログラムにより、外部からの刺激（五感覚情報）を中枢神経に取り入れ、それを調整して表現されるよう支援することで、「生きる力」、「喜びや笑うことを喜ぶできる力」を育てる。</p> <p>2. 家族支援 家族のウェルビーイングを目的とし、保護者の不安や悩み、葛藤について理解することで保護者が安心して子育ての喜びや充実感を感じることができるよう支援する。子どもの障害の特徴を探り、かかわりの工夫や信頼関係・愛着関係の形成に向けた支援を行い、親子関係及びくわいどうじん関係を構築する。</p> <p>3. 移行支援 子どもの成長・発達を支援しながら、ライフステージの変化に伴う保護者の不安や軽減をはかるとともに、学校、就労などの連携をすすめスムーズに移行できるよう支援する。子どもの将来を見据え、「保護者と子どもの意向」を把握するとともに「子どもの特性や能力」「地域の社会資源の状況を鑑み「子どもの最善の利益」の保障を念頭に丁寧に移行を支援する。</p> <p>4. 地域支援・連携 地域全体で子どもを育していくために各機関（保育施設・教育機関・公的機関専門職・地域住民）の情報を取り入れ、調整し連携する。</p>					
	就業時間	10時 0.8	0分から 17時	19時 0分まで	送迎実施の有無 あり	
		支援内容		小学生	中学生	
		高校生				
健康・生活	・健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。 ・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、身の回りを清潔にするなどの基本的な生活習慣を形成することができるよう支援する。また、健康状態を維持し、生きる力を育て、改善に必要な生活リズムが身につけられるよう支援する。					
	・学校の出欠の確認を始め、活動中の安全確保、健康管理、情緒の安定の確保が出来るよう支援する。 ・事業所の中に居場所を見つけ、安心して事業所に来ることが出来るよう支援する。 ・日々の生活の中いろいろな体験をし、生活力（我慢するや挑戦するなど）が育つよう支援する。 ・命や安全を大切にする心が育まれるよう支援する。 ・自立する力（衣服の着脱及び調整、排泄、食事など）が身につくよう支援する。 ・遊びの例一 ・お店屋さんごっこ、ままごとなど	<p>・早起きなど自分で時間を決めて規則正しい生活が出来るよう支援する。 ・春春期になり、自己肯定感や自己存在感を高め集団の中に居場所を感じ、ともに生きる仲間や支援者との間に自己表現が出来るよう平和的で、安定的な人間関係を築くよう支援する。</p> <p>・遊びを通して、人生設計、将来の事を考えるられるよう支援をする。</p> <p>・性教育を通して、命の大切さと一緒に相手を大切にすることを教える。</p> <p>・買い物や副業活動など生活体験が出来るよう支援する。</p> <p>・一日の流れなど自分で生活の時間を考え決めて生活が出来るよう支援する。</p>				
	・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢、下肢の運動・動作の改善及び獲得、筋力の維持、強化を図るよう支援する。 ・五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）及び個体や容図、前後覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びを通して支援する。情報を収集し、状況を把握して行動が出来るよう支援する。					
	・日常生活に必要な移動能力や、事業所での移動や交通機関の利用など、社会的な場面における移動能力の向上のための支援を行う。 ・感覚の偏りに対する個々がつながるることによって子どもの意欲を育てる。					
運動・感覚	・随意運動（粗大・巧緻運動）を複雑化し、さらに仰臥位、体支撑などで強化していく。 ・個々の運動達成の遅れを把握し、その子に合った粗大運動をもとに遊び（固定遊具、マット、巧技台、三輪車、ラフアーブ、なわ、ボールなど）を楽しめるよう支援する。 ・安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。（ドッヂボール、サッカー、野球、バスケット、卓球、鬼ごっこ、隠取り、縄跳び等） ・異年齢児と関わらなければ年上の子へ憧れを持ち、活動が出来るよう支援する。 ・伝承遊び（こま、お手玉、けん玉など）	<p>・事業所外での活動に参加し、色々な体験、経験が出来るよう支援する。</p> <p>・随意運動プログラムをゲーム化することにより、思考力、理解力、判断力を習得し、子どもの意欲を引き出す。</p> <p>・遊びを通して、命の大切さと一緒に相手を大切にすることを教える。</p> <p>・買い物や副業活動など生活体験が出来るよう支援する。</p> <p>・達成感や充実感を味わえるよう支援する。</p>				
	・自分に入ってる情報を適切に取得し、処理できるよう支援する。また、こだわりや偏食などに対する支援を行う。 ・過去に取得了した情報を現在取得した情報を照合し、環境や状況を把握、理解できるようするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげることが出来るよう支援する。					
	・物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間などの概念の形成を図ることによって、それを認知や行動のてがかりとして活用できるよう支援する。					
	・適切な行動への対応の支援を行う。					
本人支援	・遊び、生活を通して自主性・社会性・創造性を育めるよう支援をする。 ・善悪感あることについて、理解しながら行動するよう支援する。 ・公共交通機関における行動や身につけよう支援する。 ・公共交通機関の運賃を要する際り出仕する工夫（競争の遊び、模倣遊び、変身の遊び、運賃など）を支援する。 ・安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。（ドッヂボール、サッカー、野球、バスケット、卓球、鬼ごっこ、隠取り、縄跳び等） ・異年齢児と関わらなければ年上の子へ憧れを持ち、活動が出来るよう支援する。 ・伝承遊び（こま、お手玉、けん玉など）	<p>・異年齢での遊びを通して、より高度な技の獲得や新しい遊びへ挑戦し、やる気を持ちながらやる気を持てるよう支援する。</p> <p>・遊びの選択を増やすことで、遊びの楽しみを楽しむのではなく、遊びの楽しさを追求する。</p> <p>・遊びを通して、命の大切さと一緒に相手を大切にすることを教える。</p> <p>・事業所内ルールを中止生から小学生に伝え、守るよう教える。またも守れるよう支援する。</p> <p>・社会のルールを知り、守れるよう支援する。</p> <p>・他者の気持ちを理解し、折り合いをつけることを覚えられるように支援する。</p>				
	・遊び、生活を通して自主性・社会性・創造性を育めるよう支援をする。 ・善悪感あることについて、理解しながら行動するよう支援する。 ・公共交通機関における行動や身につけよう支援する。 ・公共交通機関の運賃を要する際り出仕する工夫（競争の遊び、模倣遊び、変身の遊び、運賃など）を支援する。 ・安心できる環境の中で思いっきり体を動かすことが出来るよう支援する。（ドッヂボール、サッカー、野球、バスケット、卓球、鬼ごっこ、隠取り、縄跳び等） ・異年齢児と関わらなければ年上の子へ憧れを持ち、活動が出来るよう支援する。 ・伝承遊び（こま、お手玉、けん玉など）					
	・遊びを通して身に付けることにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。					
	・自分の意を表現できる力を持つことで解決できるよう支援する。					
言語 コミュニケーション	・言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、指差し、サインなどを用いて意思のやり取りが行えるようにする。 ・話すことばや文字、記号、身振り、サイン、指差しなどを用いて、相手の意を理解したり、自分の考えを伝えていたりすると言語を愛着し表出することが出来るよう支援を行う。					
	・具体的な体験と言葉の意味を結び付ける事により、自動的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。					
	・人との相互作用を通して、相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといった共同注意の獲得などを含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。					
	・伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況の状況に応じて、対応できる力が育むよう支援する。					
人間関係 社会性	・生活中でよい人間関係ができるように支援員が間に入り、交代するなどして支援する。 ・自分の考えを表現できる力を持つことで解決できるよう支援する。 ・仲間との連絡ルールを守るために、たからず教えられたうしながり、他者に対する思いやりのいい信頼関係が育つよう支援する。 ・随意運動プログラムを通して支援員とのコミュニケーションを図り、状況を的確に把握する力を養う。	<p>・相手の表情や態度から気持ちは読み取ることができます。</p> <p>・相手の意を持ち、やる気を持ちながらやる気を持てるよう支援する。</p> <p>・因縁でいる時に助けが求められるよう支援する。</p> <p>・遊びの例一 ・連想ゲーム、人生ゲーム、手紙を書くなど</p>				
	・家族、ごっこで言葉のやりとりを楽しむ ・かるた、しりとり、なぞなぞ、クイズ、歌、文字カードなど					
	・子どもが人や自分に対する安心感・信頼感が持てるよう、環境を整え支援をおこなう。自身の感情が壊れたり、不安になった際に、支援員が相談にのることで、安心感を得たり、自分の感情に取り合いでいるよう支援する。					
	・遊びを通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。					
家族支援	・運動機能及び感覚機能を使った遊びから、見立て遊び、つり遊び、こっこ遊びなどの象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。					
	・人遊びから並行遊び、大人が介入して行う連合遊びの、遊び分担遊びをする中で、ルールを守って遊ぶ共同遊びへと徐々に発展させ、「理解力」「判断力」「決断力」などを育み、社会性の発達を支援する。					
	・自分の出来事や苦手手事など情動の調整が出来るよう支援する。					
	・集団に参加するための手順やルールを理解し、子どもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合ながり、仲間づくりにつながるよう支援する。					
地域支援・地域連携	・子ども同士の関わりの中で仲間と生活の楽しさを実感し、自己肯定感を育むことができるよう支援する。 ・遊びを通して仲間と協力することや思いやりの気持ちを育むことができるよう支援する。 ・失敗しても大丈夫という子ども同士の関係が育むよう支援する。 ・異年齢児との交流を通してお互いの気持ちを伝えたり、仲間と協同したりするなどの楽しさを感じる。また、人を大切にすることができるよう支援をする。	<p>・子ども同士の関わりに重点を置いて、仲間同士の関係が深められるよう支援する。</p> <p>・仲間とともに過ごすことで、心地よさを感じられるよう支援する。</p> <p>・苦手な事でも挑戦できるよう支援する。</p> <p>・公共のマナーについて理解できるよう支援する。</p>				
	・子どもが家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援。					
	・実際の子育てに関する困りごとにに対する相談援助。					
	・子どもの発達性の障がいの発見や、助言・提携。					
主な行事等	・家族が家族や周囲の人と安定した関係を形成するための支援。					
	・実際の子育てに関する困りごとにに対する相談援助。					
	・子どもの発達性の障がいの発見や、助言・提携。					
	・安心して受けられるよう相談所での様子を伝える。					
地域支援	・家族のレスパバートの時間の確保や就労などの預かりニーズに対応する。					
	・子どもが学校との情報連携や調整、支援方法や環境調整に関する相談援助。					
	・子どもを担当する保健師や子どもがいる医療機関との情報連携や調整。					
	・虐待が疑われる場合は、児童相談所や子ども家庭センターとの連絡連携。					
地域支援・地域連携	・市民元重慶委員・主任児童委員等地域の側面との連携。					
	・地域行事に参加することで、公共マナーが身につくられるよう支援する。					
	・子どものワルビーイングを目指した理念の共有を図る。					
	・必要な知識、技術を習得し、それのスキルを維持・向上するよう努力する。					
職員の質の向上	・遊びの中心に子どもの成長、発達を重視する。					
	・児童相談所での情報収集や分析・整理。					
	・児童相談所での情報収集や分析・整理。					
	・日常生活における個々の嗜好や好みの把握。					